

～文化の薫る国づくりを目指して～

『文化を培うこれからの国土交通行政を考える懇談会』中間報告を公表します。

これからの国づくりは、利便性やコストの追求だけではなく、文化的豊かさの価値に基軸を置く、というパラダイムの転換が必要です。

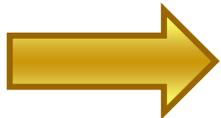
文化とは暮らしの立て方 (WAY OF LIFE) です。日々の生活の舞台 (地域・まち) が精神的に豊かなものとなって、生活文化を育み暮らしの質を高めることを目指します。また、これからの日本の経済力の増進や地域の活性化のためにも文化を培うことが重要です。

歴史・伝統を踏まえて新しい日本文化を創造し、芳醇な文化の薫りがする国づくりを目指します。



『文化を培うこれからの国土交通行政を考える懇談会』を開催し、中間報告をとりまとめました。

§ 平成18年11月から、有識者のヒアリングなどを通じて幅広い視点から忌憚のない意見交換を行いました。



この報告書をきっかけに、文化を培うための諸施策をさらに展開することを検討します。

文化の継承・創出に必要な5つの視点

人や文化の交流

§人やもの、情報が行き交うことで文化がより豊かなものになる。人の移動に伴い、文化や精神性も一緒に移動することが必要。



毎年音楽祭が行われるザルツブルクの街



軽井沢大賀ホール

日本人の感性に根ざした新たな文化

§未来の文化遺産となる優れたストックをつくるべきタイミングである。
§海外からの日本文化への注目を参考に、日本発の新たな文化を創造する。



日常の中の文化

§人々の人生を豊かにするため、日常生活の舞台の環境を整備し暮らしの質を高める。



町家の再生



ふるさと川づくり
(千葉県香取市)

文化で地域を活性化

§地元住民の誇りと愛着が地域の活力再生につながる。地元住民との協働が必要。
§都市政策・産業政策・文化政策を融合させた都市の再生を考える。



レアンドロのプール
(金沢21世紀美術館)

将来の文化を培う人材

§子供の頃から本物の文化に触れる機会をつくることが重要。
§NPOへの信頼や民間の文化支援のための環境づくりなど行政のよりソフトな対応が求められる。
§土木建築分野での技の継承のため、優れた技術者・技能者を育成する。



国土交通行政の推進にあたって、引き続き「文化」というあらたな価値体系を模索していく。

文化を培うこれからの国土交通行政を考える懇談会

メンバー（敬称略・五十音順）

座長	村上 周三	慶應大学教授
座長代理	西村 幸夫	東京大学教授
	上村多恵子	(社)京都経済同友会常任理事
	上條 典夫	(株)電通消費者研究センター局長
	コシノ・ジュンコ	ファッションデザイナー
	篠原 修	政策研究大学院大学教授
	蓑 豊	金沢21世紀美術館特任館長、大阪市立美術館名誉館長、サザビーズ北米本社副社長

プレゼンテーションを行った有識者（敬称略）

- 【第2回】 上村多恵子 ((社)京都経済同友会常任理事)
上條 典夫 ((株)電通消費者研究センター局長)
蓑 豊 (金沢市助役、金沢21世紀美術館館長、大阪市立美術館館長)
- 【第3回】 川勝 平太 (国際日本文化研究所センター教授)
茂木健一郎 (ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー)
- 【第4回】 北川フラム (アートフロントギャラリー代表取締役)
吉本 光宏 (ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室長)
- 【第5回】 林 望 (作家)
ドラ・トーザン (ジャーナリスト・エッセイスト)
- 【第6回】 大賀 典雄 (ソニー相談役(元名誉会長)、指揮者、東京フィルハーモニー交響楽団会長兼理事長)
内原 智史 (ライティングデザイナー)
- 【第7回】 安藤 忠雄 (建築家、東京大学名誉教授)